

指導活用技術
分類名〔経営〕

指21 タマネギ（春まき、晩秋まき、秋まき）導入を検討するための「担い手経営体モデル試算シート」

宮城県農業・園芸総合研究所

要約

水稲と飼料用米を作付けしている担い手経営体が、タマネギ（春まき、晩秋まき、秋まき機械化一貫体系）導入について検討できる試算シートを作成した。

〔普及対象：露地野菜を導入する土地利用経営体
普及想定地域：県内全域〕

1 取り上げた理由

園芸生産額の拡大に向けては、水田を活用した露地野菜の導入・拡大が不可欠であり、タマネギの産地化に向けた取り組みが現在県内各地で検討されている。

そこで、担い手経営体が、タマネギ（春まき、晩秋まき、秋まき機械化一貫体系）導入について検討する際に使用できる「担い手経営体モデル試算シート」を作成したので、指導活用技術とする。

2 指導活用技術

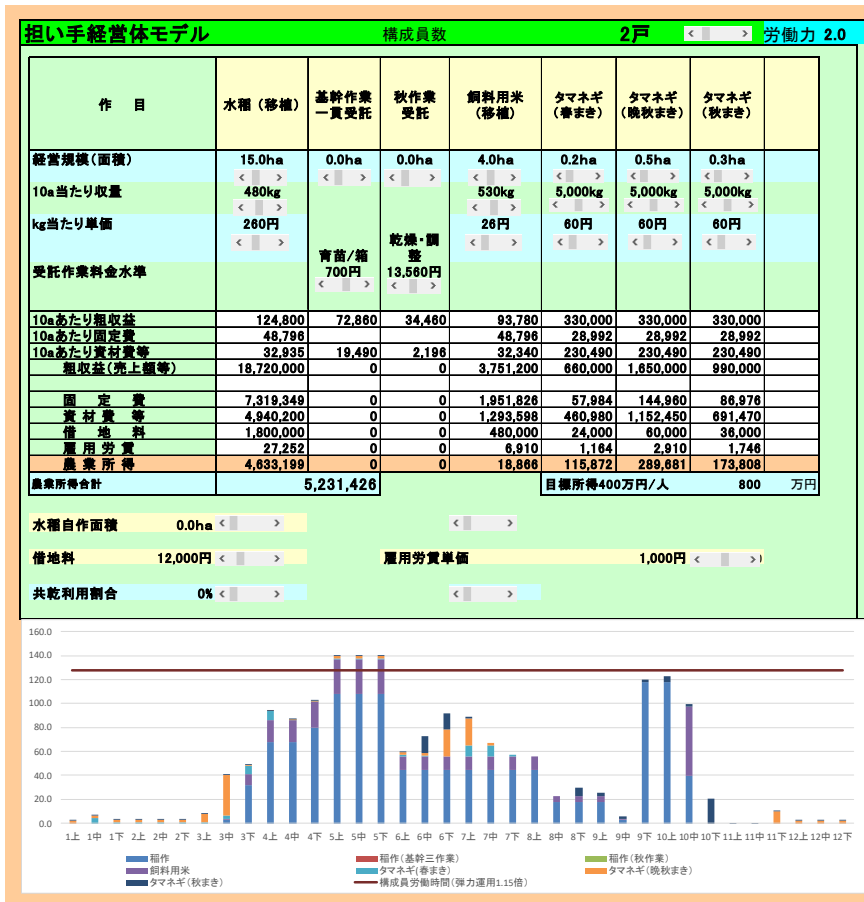
(1) 担い手経営体モデル試算シートは、作目は水稲（移植）、飼料用米（移植）、タマネギ（春まき、晩秋まき、秋まき）で構成されている。

シート内の構成員数、経営規模（面積）、10aあたり収量、kgあたり単価、借地料、雇用労賃単価等を自由に変更することができる（表1）。

また、シート内には、試算した面積での旬別労働時間も表示している（図省略）。

(2) タマネギ（春まき、晩秋まき、秋まき）を導入した場合と導入していない場合の農業所得や旬別労働時間の比較ができ、導入する場合の経営計画作成の一助となる（表2、図1）。

表1 担い手経営体モデル試算シート



3 利活用の留意点

- (1) 使用データは、「革新的技術開発・緊急展開事業」(うち経営体強化プロジェクト)、「低コスト大規模水田営農の手引き(平成29年5月, 宮城県農業・園芸総合研究所, 宮城県古川農業試験場)」でのデータを参考に行っている。また, タマネギの労働時間は, 乾燥調製販売を委託していることから, 全ての作業を行う場合は, 作業時間の修正を行う必要がある。
- (2) 当シートは, 宮城県農林水産部農業振興課作成シート(使用ソフト; Excel)を参考にしている。
- (3) 作成したファイルは, 388KB程度で, 宮城県農業・園芸総合研究所情報経営部にて入手可能である。
(問い合わせ先: 宮城県農業・園芸総合研究所情報経営部 電話022-383-8119)

4 背景となった主要な試験研究

- (1) 研究課題名及び研究期間
「革新的技術開発・緊急展開事業」(うち経営体強化プロジェクト)(平成29~令和元年)
- (2) 参考データ

表2 技術導入した場合の収益性(例)

	技術導入あり	技術導入なし
労働力(基幹労働力)	2人	2人
農地面積	20ha	20ha
作付面積合計	20ha	20ha
水稻(移植)	15ha	14ha
飼料用米(移植)	4ha	6ha
タマネギ(春まき)	0.2ha	0ha
タマネギ(晩秋まき)	0.5ha	0ha
タマネギ(秋まき)	0.3ha	0ha
総労働時間	1,795時間	1,607時間
限界利益(a)	14,833千円	14,148千円
雇用労賃	40千円	50千円
固定費(b)	9,561千円	9,473千円
農業所得	5,231千円	4,625千円
労働力(基幹労働力)1人当たり農業所得	2,616千円	2,313千円

注1)試算計画法により算出

注2)限界利益は, 粗収益から資材費等と借地料を引いたものである。

注3)固定費は, 減価償却費, 修理費, 車庫費, 租税公課である。

注4)農業所得は, 粗収益(売上額等)から固定費, 資材費等, 借地料, 雇用労賃を引いている。

注5)タマネギに関する専用機(全自動播種機・移植機・剪葉機・収穫機・ピッカー)は, JAからレンタルしている(管内作付目標20ha)。

注6)タマネギ作業のうち, 乾燥調製, 出荷, 販売はJAが受託している。

注7)10a当たり収量は, 水稻(移植)480kg, 飼料用米(移植)530kg, タマネギ(春まき, 晩秋まき, 秋まき)5,000kgである。

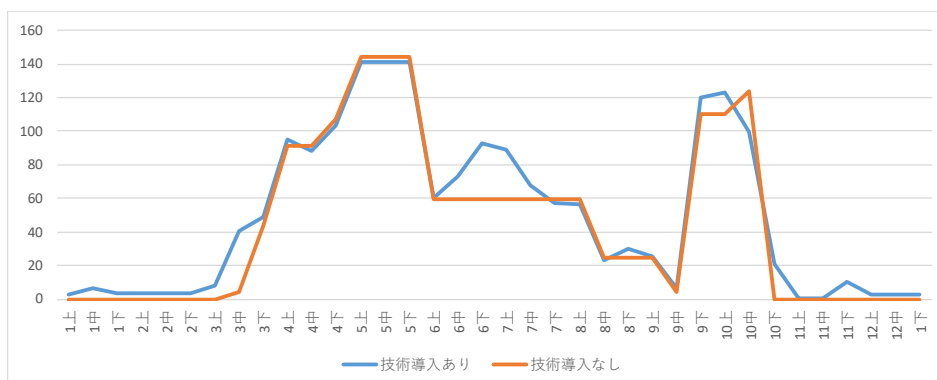


図1 タマネギ技術導入後の旬別労働時間(例)

3) 発表論文等 なし

4) 共同研究機関 農研機構東北農業研究センター他